

事業所における自己評価総括表

○事業所名		びゅん大田		
○保護者評価実施期間		2026年1月7日	～	2026年1月31日
○保護者評価有効回答数		(対象者数) 19	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間		2026年 3月 3日	～	2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数		(対象者数) 5	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成		2026年3月7日		
○分析結果				
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待さ	工夫していることや意識的に行っている取組等		さらに充実を図るための取組等
1	学校・家庭・地域の強固な連携体制	学校との役割分担の明確化や行事への配慮、保護者との密な情報共有を徹底している。		連携によって得られた情報の変化が、どのようにお子様の成長に繋がったかを可視化し、保護者へ共有する。
2	職員のお子様に対する「懸命に向き合う姿勢」	スタッフ一人ひとりが高い倫理観を持ち、個別支援計画に基づいた適切な療育を情熱を持って実践している。		この高い志を維持しつつ、誰が担当しても同じクオリティの支援ができるよう、チーム内での事例検討を深化させる。
3	安心・安全かつ清潔な施設環境の提供	バリアフリー化や防犯対策、日々の清掃活動をスタッフ全員で徹底し、100%の満足度を得ている。		事故未然防止のためのヒヤリハット分析を継続し、常に「安全・安心」の基準をアップデートし続ける。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思う	事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の属人化(スタッフ固定化)への懸念	お子様の安心感を優先するあまり、特定の職員に知識や対応が偏ってしまう「属人化」の傾向がある。		「メイン担当+サブ担当」のチーム制をより明確にし、スタッフ間での情報共有システムを強化して誰でも対応できる体制を整える。
2	非常災害対策(BCP等)の周知と理解度	マニュアルの策定や訓練は行っているが、保護者への具体的な周知や、一部スタッフの理解がまだ十分ではない。		避難訓練の様子を会報等で写真付きでレポートし、災害時の連絡・行動を再確認し、周知徹底する。
3	自己評価結果の公表とフィードバック	評価結果の公表は行っているが、それに基づいた「改善へのアクション」が保護		評価結果と対応策を定期的にその進捗を報告する。